

惠王錦廓春風

三升比國貞重

2378
360



文政十三年印本

市川團十郎作
五渡亭國貞画

全本六冊

惠士錦廓春風編前

文政十三年庚寅 芝神明前三嶋町

孟春刊行發市 和泉屋市兵衛版

惠 土 錦

上



三升 外
 園 貞
 画 板

忠 心 義 勇

其 神 明 矣
 其 乃
 上 梓

冲 編

廊春風

全六冊

下



全六冊



甘泉堂版

市川團十郎作

中



遠 2378 360

文政十二
 宮の正月吉日
 五柳亭徳外述
 文政十二宮の正月吉日
 五柳亭徳外述
 文政十二宮の正月吉日
 五柳亭徳外述

夫つら。當時の流俗を以て茶人めくを通人あれは通人のめくを
 茶人あり能優を真似る者人あれは素人めく及能優あり。姑が姑
 姑が嫁り。締つらさるるをりつらる人情されは腕の俱利迦羅を以て使客
 の水滸傳の豪傑とひなり。唐物舗の標記はあれど。さきまが席の
 皮の禪のまゆと。さらし木綿のまゆとを以て緋の方す。流紫乃
 博多。角の帯。小石つら。太きとひなり。細鼻緒と。つら
 るも世の風俗。貸本の博覧唐軍。眼をさし。隨筆歌書。物居
 文と弄ぶ。婦女子あり。童蒙あり。る世界のり。あれは赤本時代の故
 と捨て。今新麗麗風雅と。守りつら。この春の慰冊子。と。





書物乃 龍
 ちんちん けさ
 ちんちん ちんちん
 古梅園
 五柳亭徳外



文 文 文

梅の春

梅の春

隅田の海

梅廻門主人述

八幡

太郎

義家



男の春霞ひくもちるにほのあけ
のこまか朝日赤間身現の海の
青さ文字の甘なき書初め筆
能か浪間よ君和布ゆき
春げた浮てのめい
妻の根のの
あもの都鳥の
この恵方さ萬吉原
三谷の室船とての買ゆん
とる夢吹三つとん女天さんと
まひの花の錦の
るの夜具とるる



梅の春
梅が
盆木も
三つとんの
土手小
さつる鳥追の三筋
めまれ連ひき

實の眞任が
一子千代童

安部の宗任が
養女貞現
新屋の浦三
錦木
後

梅の春

三

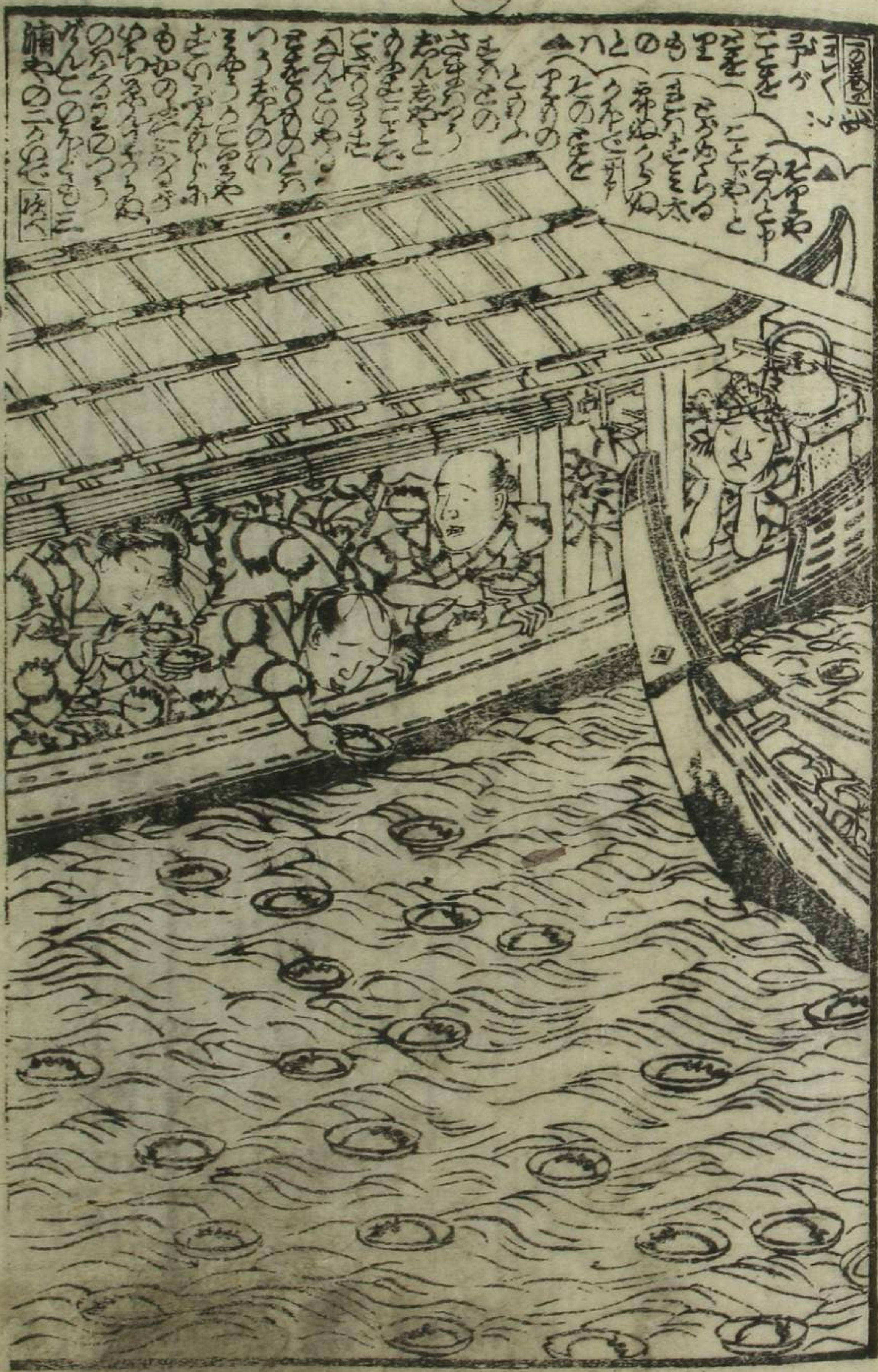




Handwritten text in a vertical column, likely a title or introductory text for the illustration. The characters are small and densely packed.



Handwritten text in a vertical column, likely a title or introductory text for the illustration. The characters are small and densely packed.



Handwritten text in a cursive script, likely a form of shorthand or a specific dialect, surrounding the illustration of a woman. The text is arranged in vertical columns, with some lines crossing the top and bottom of the image.



Handwritten text in a cursive script, likely a form of shorthand or a specific dialect, surrounding the illustration of a man. The text is arranged in vertical columns, with some lines crossing the top and bottom of the image.



Vertical text on the left margin of the right page.

Small vertical text at the bottom of the right page.

Handwritten text in a cursive script, likely a translation or commentary, located at the top of the right page.



Handwritten text in a cursive script, continuing the commentary or translation, located at the bottom of the right page.

Handwritten text in a cursive script, likely a translation or commentary, located at the top of the left page.



Handwritten text in a cursive script, continuing the commentary or translation, located at the bottom of the left page.



三

四



あぢののみこ
あまのつねのわ
たせこまつい
くひくあつ
「スヤこのあひぢ」

あぢののみこ
あまのつねのわ
たせこまつい
くひくあつ

あぢののみこ
あまのつねのわ
たせこまつい
くひくあつ



あぢののみこ
あまのつねのわ
たせこまつい
くひくあつ

あぢののみこ
あまのつねのわ
たせこまつい
くひくあつ

あぢののみこ
あまのつねのわ
たせこまつい
くひくあつ

一物の中へ人のついでをうけんとす
 上のあみかひかゆるゆゑのふもあけ
 みかうちろろをうけんとすゆゑの
 つらゆゑのつらさをうけんとす大少も
 さまがふてそのあみのひわい
 へふかへしまたをゆゑのふもあ
 ちらまするをゆゑのふもあ
 さすてはひわいのちまうけよゆ
 宗一つ方々を目よつとす
 九つ所えさうりてせんきと
 てもうさうたがらうらふひ
 みるともあらそとの
 わゆねぬきをうけ
 かのひのせきをの
 かくをゆゑの
 きののゆゑの
 きのゆゑの
 きのゆゑの
 きのゆゑの
 きのゆゑの
 ひと福はうなんのふも



一物の中へ人のついでをうけんとす
 上のあみかひかゆるゆゑのふもあけ
 みかうちろろをうけんとすゆゑの
 つらゆゑのつらさをうけんとす大少も
 さまがふてそのあみのひわい
 へふかへしまたをゆゑのふもあ
 ちらまするをゆゑのふもあ
 さすてはひわいのちまうけよゆ
 宗一つ方々を目よつとす
 九つ所えさうりてせんきと
 てもうさうたがらうらふひ
 みるともあらそとの
 わゆねぬきをうけ
 かのひのせきをの
 かくをゆゑの
 きののゆゑの
 きのゆゑの
 きのゆゑの
 きのゆゑの
 きのゆゑの
 ひと福はうなんのふも

一物の中へ人のついでをうけんとす
 上のあみかひかゆるゆゑのふもあけ
 みかうちろろをうけんとすゆゑの
 つらゆゑのつらさをうけんとす大少も
 さまがふてそのあみのひわい
 へふかへしまたをゆゑのふもあ
 ちらまするをゆゑのふもあ
 さすてはひわいのちまうけよゆ
 宗一つ方々を目よつとす
 九つ所えさうりてせんきと
 てもうさうたがらうらふひ
 みるともあらそとの
 わゆねぬきをうけ
 かのひのせきをの
 かくをゆゑの
 きののゆゑの
 きのゆゑの
 きのゆゑの
 きのゆゑの
 きのゆゑの
 ひと福はうなんのふも



一物の中へ人のついでをうけんとす
 上のあみかひかゆるゆゑのふもあけ
 みかうちろろをうけんとすゆゑの
 つらゆゑのつらさをうけんとす大少も
 さまがふてそのあみのひわい
 へふかへしまたをゆゑのふもあ
 ちらまするをゆゑのふもあ
 さすてはひわいのちまうけよゆ
 宗一つ方々を目よつとす
 九つ所えさうりてせんきと
 てもうさうたがらうらふひ
 みるともあらそとの
 わゆねぬきをうけ
 かのひのせきをの
 かくをゆゑの
 きののゆゑの
 きのゆゑの
 きのゆゑの
 きのゆゑの
 きのゆゑの
 きのゆゑの
 ひと福はうなんのふも



翠の母は... 翠は... 母は...



翠の母は... 翠は... 母は...

翠の母は... 翠は... 母は...



翠の母は... 翠は... 母は...

いりちのちのち
たのしみ
あはれ
おもしろ
かたじけなく
とて



おもしろ
かたじけなく
とて

あはれ
おもしろ
かたじけなく
とて



あはれ
おもしろ
かたじけなく
とて

ついでにそのついでに
おかしき事どもおかしき事ども
おかしき事どもおかしき事ども
おかしき事どもおかしき事ども
おかしき事どもおかしき事ども
おかしき事どもおかしき事ども
おかしき事どもおかしき事ども
おかしき事どもおかしき事ども
おかしき事どもおかしき事ども
おかしき事どもおかしき事ども



おかしき事どもおかしき事ども
おかしき事どもおかしき事ども
おかしき事どもおかしき事ども
おかしき事どもおかしき事ども
おかしき事どもおかしき事ども
おかしき事どもおかしき事ども
おかしき事どもおかしき事ども
おかしき事どもおかしき事ども
おかしき事どもおかしき事ども
おかしき事どもおかしき事ども



美艶仙女香
ゆりみりさまの
ゆりみりさまの

美玄香

江戸流行

八百善著

料理通三編

料理通三編
八百善著
江戸流行



宗
宗
宗

美艶仙女香
ゆりみりさまの
ゆりみりさまの



景
景
景

つたに... 宗... 徳外作

あつち... 宗... 徳外作

徳外作
團十郎口技
國真画



あつち... 宗... 徳外作



あつち... 宗... 徳外作

徳外作
團十郎口技
國真画



おのれは山崎のしんがら
 甘んじぬとておのれは
 せいせいのとておのれは
 せいせいのとておのれは
 せいせいのとておのれは
 せいせいのとておのれは

山崎のしんがら
 甘んじぬとておのれは
 せいせいのとておのれは
 せいせいのとておのれは
 せいせいのとておのれは
 せいせいのとておのれは



おのれは山崎のしんがら
 甘んじぬとておのれは
 せいせいのとておのれは
 せいせいのとておのれは
 せいせいのとておのれは
 せいせいのとておのれは

おのれは山崎のしんがら
 甘んじぬとておのれは
 せいせいのとておのれは
 せいせいのとておのれは
 せいせいのとておのれは
 せいせいのとておのれは

おのれは山崎のしんがら
 甘んじぬとておのれは
 せいせいのとておのれは
 せいせいのとておのれは
 せいせいのとておのれは
 せいせいのとておのれは

六



六の巻八

...



夜雨菴三妹著作



Handwritten text above the illustration, including the characters "香蝶樓國貞画".

香蝶樓國貞画



